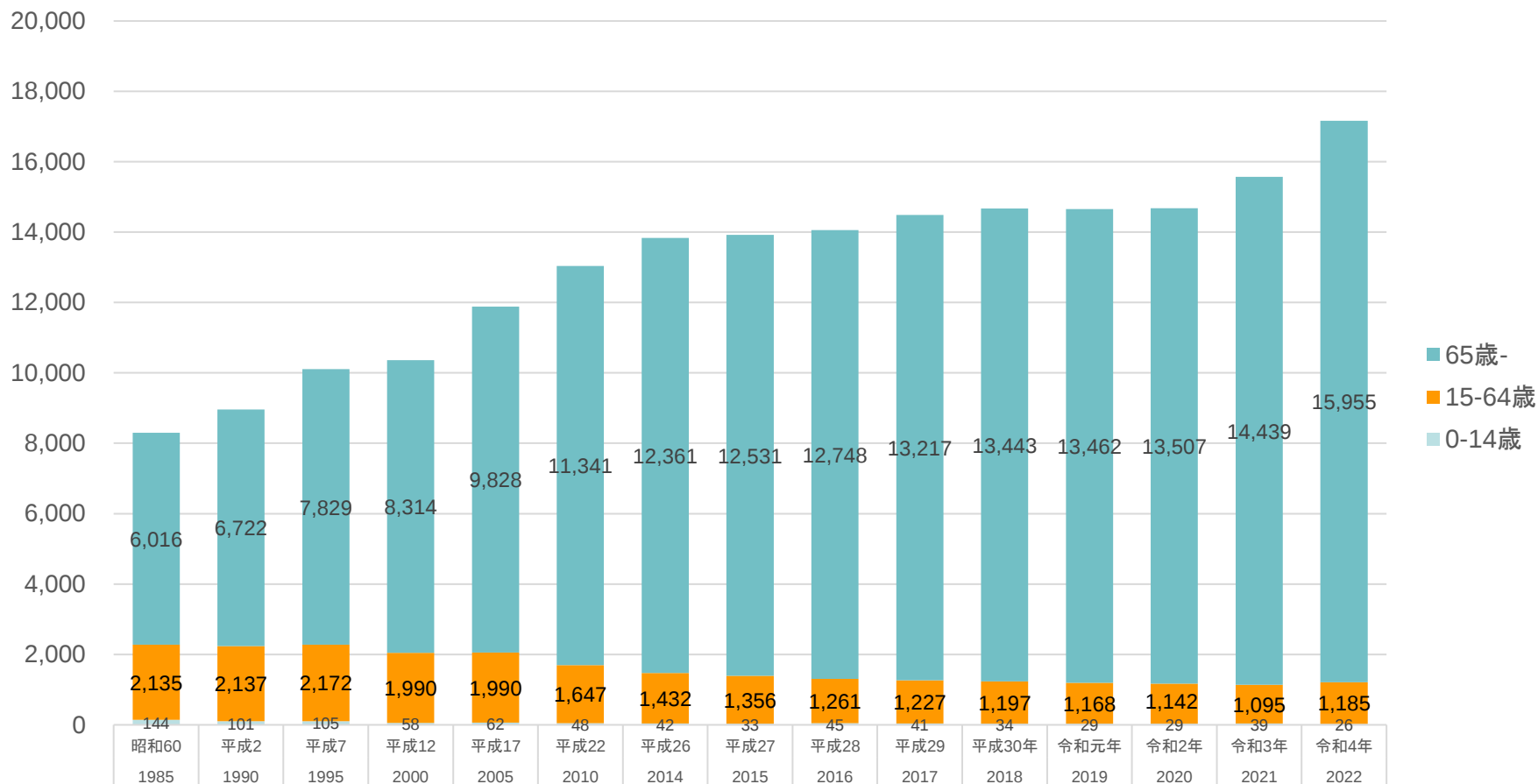


奈良県における死亡の現状について

(令和6年度作成)

死亡者数の推移(奈良県)

- 令和4年の死亡者総数は17,166人であり、約20年前の平成12年から1.5倍以上の増加
- 年齢階層別に見ると、年々65歳以上の割合が増加し、平成27年以降は死亡者数のうち9割以上を65歳以上が占める
- 令和4年は前年に比べ死亡者が1,600人近く急増している



死因分類別 死亡数・構成割合・死亡率(全国/奈良県)

- 全国と奈良県で全体の死亡率に大きな差は無い
- 奈良県は全国よりも、「自殺」の割合が高く、「不慮の溺死及び溺水」の割合が低い
- 新型コロナウイルス感染症流行のため、特殊目的用コードの割合が増加している

令和4年（2022年） 死因別死亡数、構成割合、死亡率

死 因	全国			奈良県（総計）		
	死亡数	死亡総数に占める割合（%）	死亡率（人口10万対）	死亡数	死亡総数に占める割合（%）	死亡率（人口10万対）
全死因	1,569,050	100.00	1,285.8	17,166	100.00	1,329.7
病死、自然死	1,448,206	92.30	1,186.9	15,854	92.36	1,227.9
外因死	73,183	4.66	60.0	753	4.39	58.3
不慮の事故	43,420	2.77	35.6	422	2.46	32.7
交通事故	3,541	0.23	2.9	33	0.19	2.6
転倒・転落・墜落	11,569	0.74	9.5	136	0.79	10.5
不慮の溺死及び溺水	8,677	0.55	7.1	46	0.27	3.6
不慮の窒息	8,710	0.56	7.1	65	0.38	5
煙、火及び火災への曝露	967	0.06	0.8	16	0.09	1.2
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	569	0.04	0.5	3	0.02	0.2
その他の不慮の事故	9,387	0.60	7.7	123	0.72	9.5
自殺	21,252	1.35	17.4	235	1.37	18.2
他殺	213	0.01	0.2	2	0.01	0.2
その他の外因	8,298	0.53	6.8	94	0.55	7.3
特殊目的用コード	47,661	3.04	39.1	559	3.26	43.3

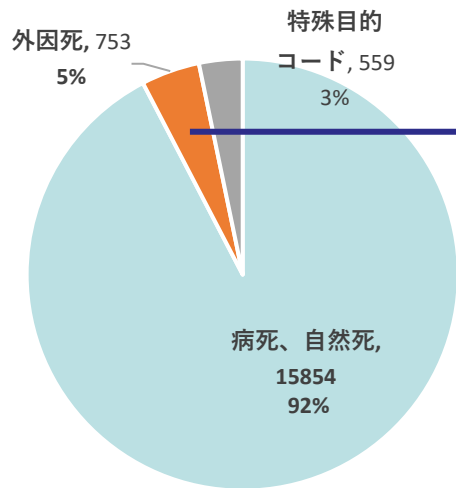
出典：令和4年人口動態統計

- ・上巻 死亡 第5. 19表 死因(死因簡単分類)別にみた都道府県(特別区-指定都市再掲)別死亡率(人口10万対)
- ・下巻 死亡 第4表 死亡数, 死因(死因簡単分類)・性・都道府県(特別区-指定都市再掲)別

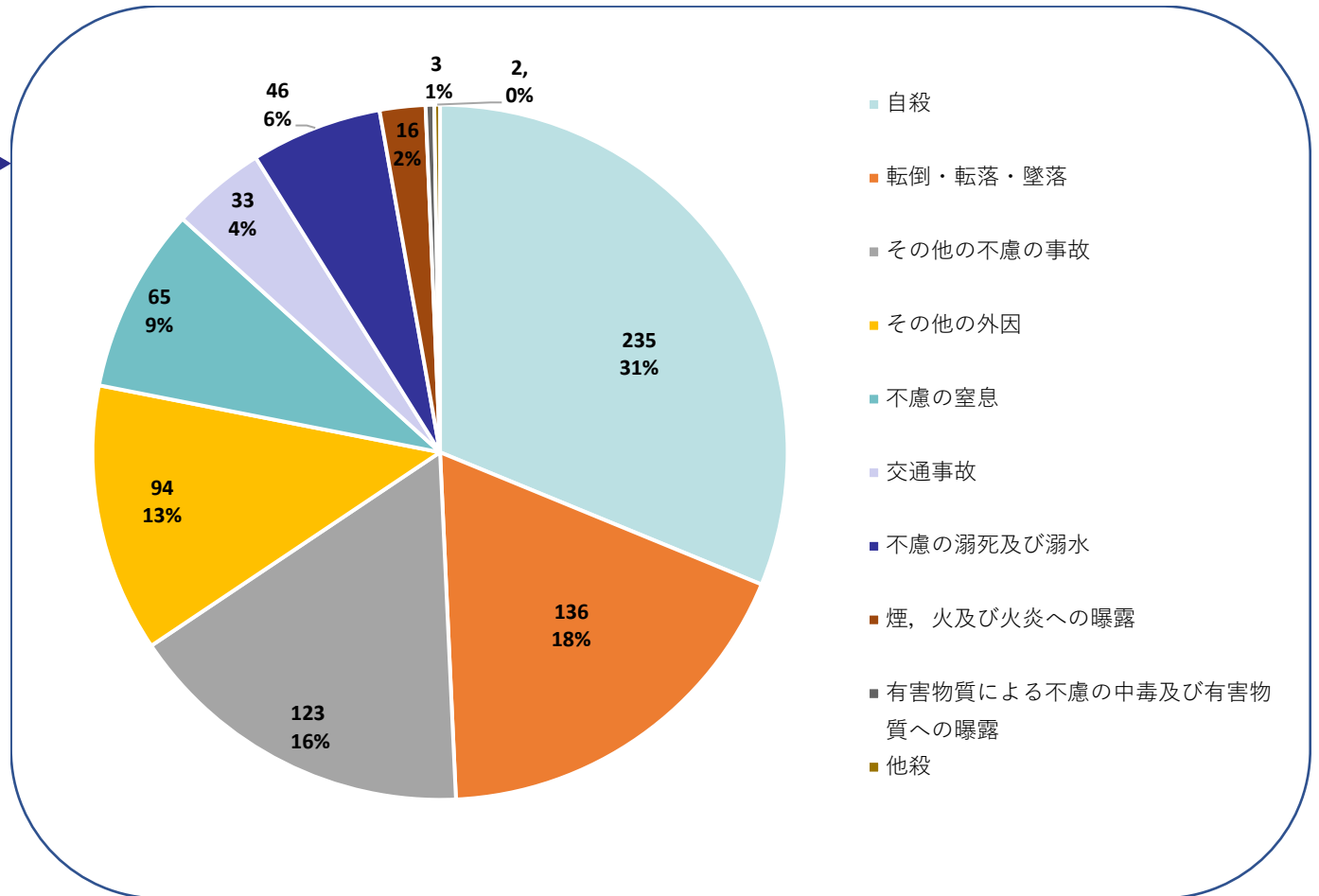
死因分類別 死亡数・構成割合(奈良県の詳細)

- 死因に占める「外因死」の割合は約5%
- 外因死の内訳は、「自殺」「転倒・転落・墜落」が多く、全体の約半数を占める

令和4年 死因



外因死の内訳



死亡割合・死因順位別年次推移(全国)

- 1985年に悪性新生物(がん)が死因の1位となり、現在まで継続して1位。2000年以降、2位は心疾患
- 2017年には老衰が4位にランクインし、2022年時点では3位

年次		第 1 位			第 2 位			第 3 位			第 4 位		
		死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率	死 因	死亡数	死亡率
1990	平成2	悪性新生物	217,413	177.2	心疾患	165,478	134.8	脳血管疾患	121,944	99.4	肺炎及び気管支炎	74,535	60.7
95	平成7	悪性新生物	263,022	211.6	脳血管疾患	146,552	117.9	心疾患	139,206	112.0	肺炎	79,629	64.1
2000	平成12	悪性新生物	295,484	235.2	心疾患	146,741	116.8	脳血管疾患	132,529	105.5	肺炎	86,938	69.2
05	平成17	悪性新生物	325,941	258.3	心疾患	173,125	137.2	脳血管疾患	132,847	105.3	肺炎	107,241	85.0
10	平成22	悪性新生物	353,499	279.7	心疾患	189,361	149.8	脳血管疾患	123,461	97.7	肺炎	118,888	94.1
11	平成23	悪性新生物	357,306	283.2	心疾患	194,926	154.5	肺炎	124,749	98.9	脳血管疾患	123,867	98.2
12	平成24	悪性新生物	360,963	286.6	心疾患	198,836	157.9	肺炎	123,925	98.4	脳血管疾患	121,602	96.5
13	平成25	悪性新生物	364,873	290.3	心疾患	196,723	156.5	肺炎	122,969	97.8	脳血管疾患	118,347	94.1
14	平成26	悪性新生物	368,106	293.5	心疾患	196,931	157.0	肺炎	119,652	95.4	脳血管疾患	114,209	91.1
15	平成27	悪性新生物	370,362	295.5	心疾患	196,127	156.5	肺炎	120,959	96.5	脳血管疾患	111,974	89.4
16	平成28	悪性新生物	373,088	298.4	心疾患	198,070	158.4	肺炎	119,346	95.5	脳血管疾患	109,353	87.5
17	平成29	悪性新生物<腫瘍>	373,365	299.5	心疾患	204,868	164.4	脳血管疾患	109,896	88.2	老衰	101,411	81.4
18	平成30	悪性新生物<腫瘍>	373,584	300.7	心疾患	208,221	167.6	老衰	109,605	88.2	脳血管疾患	108,186	87.1
19	令和元	悪性新生物<腫瘍>	376,425	304.2	心疾患	207,714	167.9	老衰	121,863	98.5	脳血管疾患	106,552	86.1
20	令和2	悪性新生物<腫瘍>	378,385	306.6	心疾患	205,596	166.6	老衰	132,440	107.3	脳血管疾患	102,978	83.5
21	令和3	悪性新生物<腫瘍>	381,505	310.7	心疾患	214,710	174.9	老衰	152,027	123.8	脳血管疾患	104,595	85.2
22	令和4	悪性新生物<腫瘍>	385,797	316.1	心疾患	232,964	190.9	老衰	107,481	88.1	脳血管疾患	179,529	147.1

出典: 令和4年人口動態統計

上巻 死亡 第5.11表 死因順位別にみた年次別死亡率(人口10万対)

上巻 死亡 第5.12表 死因(死因年次推移分類)別にみた性・年次別死亡数及び死亡率(人口10万対)

死亡割合・死因順位別年次推移(奈良県)

- 全国と同様に、1985年以降は悪性新生物(がん)が死因の1位
- 2017年には、老衰が4位にランクインし、2022年時点で3位

年次		第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位	
		死 因	死亡割合	死 因	死亡割合	死 因	死亡割合	死 因	死亡割合
1985	昭和60	悪性新生物	25.6	心疾患	18.9	脳血管疾患	18.7	肺炎及び気管支炎	5.9
1990	平成2	悪性新生物	27.2	心疾患	21.5	脳血管疾患	14.1	肺炎及び気管支炎	7.9
95	平成7	悪性新生物	29.6	心疾患	15.4	脳血管疾患	15	肺炎	8.7
2000	平成12	悪性新生物	31.7	心疾患	16.2	脳血管疾患	12.6	肺炎	8.5
05	平成17	悪性新生物	31.7	心疾患	18.2	脳血管疾患	10.5	肺炎	10.3
10	平成22	悪性新生物	31	心疾患	18.7	肺炎	10.6	脳血管疾患	8.8
11	平成23	悪性新生物	30.6	心疾患	18.1	肺炎	10.4	脳血管疾患	8.9
12	平成24	悪性新生物	29.4	心疾患	18.3	肺炎	9.9	脳血管疾患	8.5
13	平成25	悪性新生物	29.7	心疾患	18.2	肺炎	10	脳血管疾患	8.5
14	平成26	悪性新生物	29.5	心疾患	17.8	肺炎	9.8	脳血管疾患	8
15	平成27	悪性新生物	29.1	心疾患	18	肺炎	9.9	脳血管疾患	7.7
16	平成28	悪性新生物	29.6	心疾患	17.9	肺炎	9.7	脳血管疾患	7.3
17	平成29	悪性新生物<腫瘍>	28.2	心疾患	16.7	肺炎	8.2	老衰	7
18	平成30	悪性新生物<腫瘍>	27.5	心疾患	18.1	肺炎	7.4	脳血管疾患	6.9
19	令和元	悪性新生物<腫瘍>	28.1	心疾患	16.6	老衰	8.7	肺炎	7.8
20	令和2	悪性新生物<腫瘍>	29	心疾患	16.3	老衰	9.4	脳血管疾患	6.6
21	令和3	悪性新生物<腫瘍>	26.6	心疾患	16.6	老衰	10.6	脳血管疾患	6.4
22	令和4	悪性新生物<腫瘍>	24.6	心疾患	16.7	老衰	11.9	脳血管疾患	5.7

0～49歳の死亡順位・死亡数・死亡率（年齢階級別；全国）

- 10歳～39歳までの年齢層においては、自殺、不慮の事故等の外因死が多く見られる
- 40歳以上では、悪性新生物、心疾患等による病死の占める割合が大きい

	第1位				第2位				第3位				第4位				第5位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
総数	悪性新生物＜腫瘍＞	385,797	316.1	24.6	心疾患	232,964	190.9	14.8	老衰	179,529	147.1	11.4	脳血管疾患	107,481	88.1	6.9	肺炎	74,013	60.7	4.7
0歳	先天奇形，変形及び染色体異常	483	62.7	35.6	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害	202	26.2	14.9	不慮の事故	60	7.8	4.4	乳幼児突然死症候群	44	5.7	3.2	妊娠期間及び胎児発育に関連する障害	42	5.4	3.1
1～4歳	先天奇形，変形及び染色体異常	114	3.4	23	不慮の事故	59	1.7	11.9	悪性新生物＜腫瘍＞	46	1.4	9.3	心疾患（高血圧性を除く）	26	0.8	5.3	肺炎	17	0.5	3.4
5～9歳	悪性新生物＜腫瘍＞	89	1.8	28.6	先天奇形，変形及び染色体異常	29	0.6	9.3	不慮の事故	28	0.6	9	その他の新生物＜腫瘍＞	14	0.3	4.5	心疾患（高血圧性を除く）	13	0.3	4.2
10～14歳	自殺	119	2.3	28.2	悪性新生物＜腫瘍＞	84	1.6	19.9	不慮の事故	34	0.6	8.1	先天奇形，変形及び染色体異常	25	0.5	5.9	心疾患（高血圧性を除く）	19	0.4	4.5
15～19歳	自殺	663	12.2	52.4	不慮の事故	196	3.6	15.5	悪性新生物＜腫瘍＞	124	2.3	9.8	心疾患（高血圧性を除く）	43	0.8	3.4	先天奇形，変形及び染色体異常	26	0.5	2.1
20～24歳	自殺	1,243	21.3	57.9	不慮の事故	262	4.5	12.2	悪性新生物＜腫瘍＞	144	2.5	6.7	心疾患（高血圧性を除く）	81	1.4	3.8	脳血管疾患	29	0.5	1.4
25～29歳	自殺	1,154	19.4	51.1	悪性新生物＜腫瘍＞	245	4.1	10.9	不慮の事故	211	3.6	9.3	心疾患（高血圧性を除く）	119	2	5.3	脳血管疾患	35	0.6	1.6
30～34歳	自殺	1,115	18.4	39.6	悪性新生物＜腫瘍＞	482	7.9	17.1	心疾患（高血圧性を除く）	211	3.5	7.5	不慮の事故	209	3.4	7.4	脳血管疾患	103	1.7	3.7
35～39歳	自殺	1,350	19.5	30.6	悪性新生物＜腫瘍＞	977	14.1	22.1	心疾患（高血圧性を除く）	386	5.6	8.7	不慮の事故	268	3.9	6.1	脳血管疾患	229	3.3	5.2
40～44歳	悪性新生物＜腫瘍＞	1,957	25.4	26.9	自殺	1,583	20.5	21.8	心疾患（高血圧性を除く）	747	9.7	10.3	脳血管疾患	593	7.7	8.2	肝疾患	395	5.1	5.4
45～49歳	悪性新生物＜腫瘍＞	4,374	47.2	31.6	自殺	1,991	21.5	14.4	心疾患（高血圧性を除く）	1,680	18.1	12.1	脳血管疾患	1,184	12.8	8.6	肝疾患	818	8.8	5.9

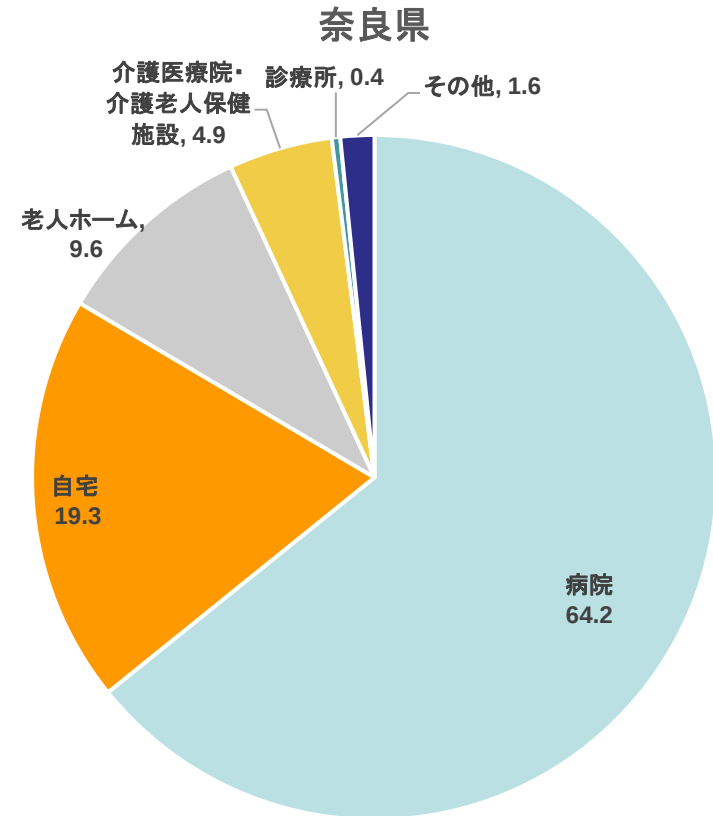
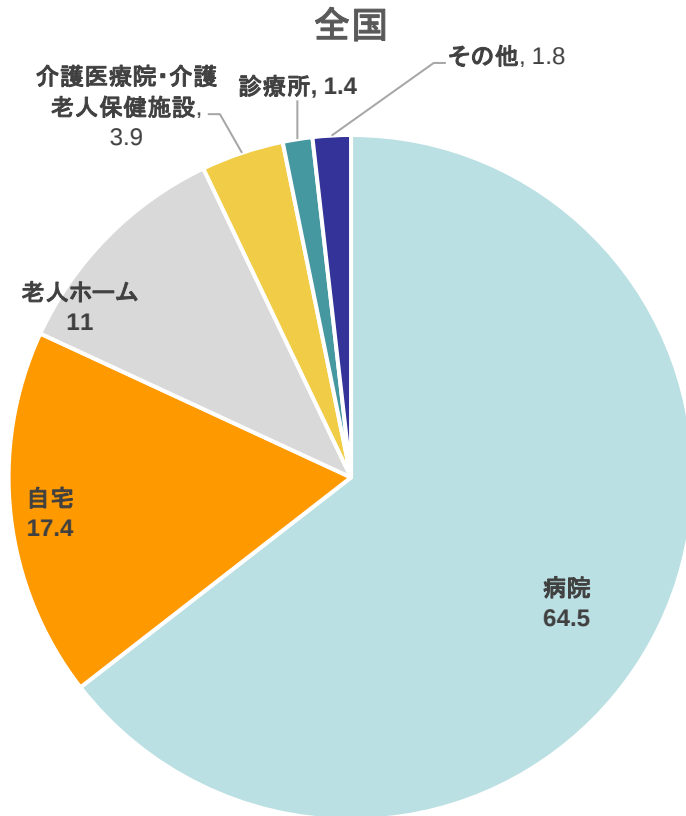
50歳以上の死亡順位・死亡数・死亡率（年齢階級別；全国）

- 65歳～79歳の年齢層においては、不慮の事故等による外因死の割合が一定程度存在する
- 90歳以上では、老衰の割合が高い

	第 1 位				第 2 位				第 3 位				第 4 位				第 5 位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
総数	悪性新生物＜腫瘍＞	385,797	316.1	24.6	心疾患	232,964	190.9	14.8	老衰	179,529	147.1	11.4	脳血管疾患	107,481	88.1	6.9	肺炎	74,013	60.7	4.7
50～54歳	悪性新生物＜腫瘍＞	7,631	82.4	35	心疾患	2,840	30.7	13	自殺	2,162	23.4	9.9	脳血管疾患	1,832	19.8	8.4	肝疾患	1,227	13.3	5.6
55～59歳	悪性新生物＜腫瘍＞	11,185	141	39.1	心疾患	3,777	47.6	13.2	脳血管疾患	2,066	26	7.2	自殺	1,808	22.8	6.3	肝疾患	1,457	18.4	5.1
60～64歳	悪性新生物＜腫瘍＞	17,799	242.2	42.4	心疾患	5,502	74.9	13.1	脳血管疾患	2,835	38.6	6.8	肝疾患	1,639	22.3	3.9	自殺	1,482	20.2	3.5
65～69歳	悪性新生物＜腫瘍＞	30,175	404.3	43.9	心疾患	8,422	112.8	12.3	脳血管疾患	4,342	58.2	6.3	不慮の事故	1,961	26.3	2.9	肝疾患	1,957	26.2	2.8
70～74歳	悪性新生物＜腫瘍＞	58,964	635.1	41.7	心疾患	17,639	190	12.5	脳血管疾患	9,224	99.4	6.5	肺炎	4,152	44.7	2.9	不慮の事故	3,945	42.5	2.8
75～79歳	悪性新生物＜腫瘍＞	61,357	877.3	36.1	心疾患	21,891	313	12.9	脳血管疾患	11,961	171	7	肺炎	6,709	95.9	3.9	不慮の事故	5,004	71.5	2.9
80～84歳	悪性新生物＜腫瘍＞	69,694	1,218.70	28.2	心疾患	35,048	612.8	14.2	脳血管疾患	17,806	311.4	7.2	老衰	14,637	255.9	5.9	肺炎	12,565	219.7	5.1
85～89歳	悪性新生物＜腫瘍＞	65,809	1,669.40	20.5	心疾患	50,334	1,276.80	15.7	老衰	35,936	911.6	11.2	脳血管疾患	23,455	595	7.3	肺炎	18,603	471.9	5.8
90～94歳	老衰	58,161	2,931.50	19.7	心疾患	50,921	2,566.60	17.2	悪性新生物＜腫瘍＞	40,195	2,026.00	13.6	脳血管疾患	20,278	1,022.10	6.9	肺炎	18,142	914.4	6.1
95～99歳	老衰	46,331	8,273.40	29.9	心疾患	27,273	4,870.20	17.6	悪性新生物＜腫瘍＞	12,737	2,274.50	8.2	脳血管疾患	9,467	1,690.50	6.1	肺炎	8,945	1,597.30	5.8
100歳以上	老衰	18,210	20,931.00	45.3	心疾患	5,926	6,811.50	14.7	脳血管疾患	1,987	2,283.90	4.9	肺炎	1,852	2,128.70	4.6	悪性新生物＜腫瘍＞	1,703	1,957.50	4.2

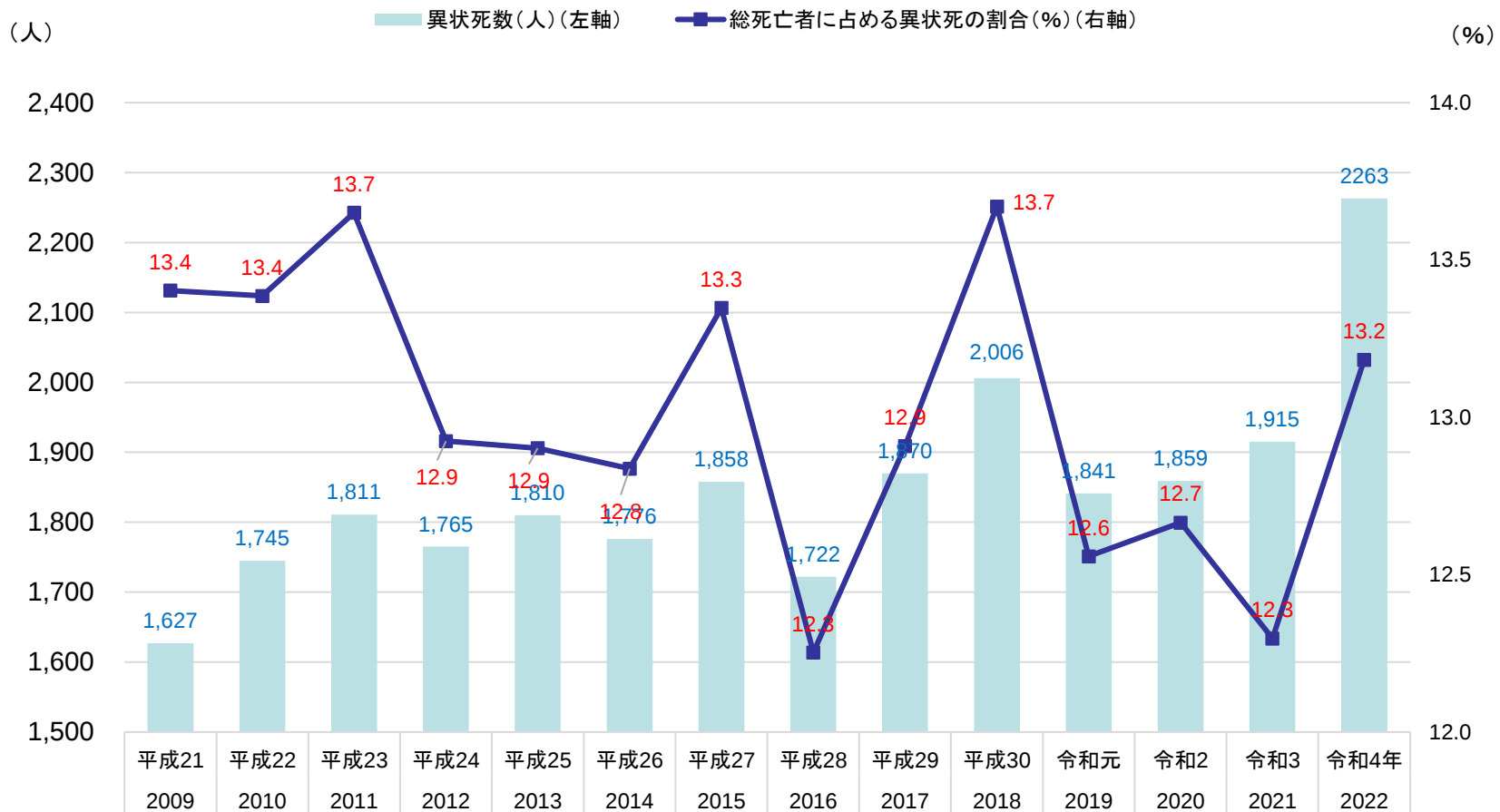
死亡場所(全国/奈良県)

- 全国・奈良県とも、「病院」での死亡が最も多く、次いで「自宅」
- 年々「自宅」「老人ホーム」「介護老人保護施設等」の割合が増加している



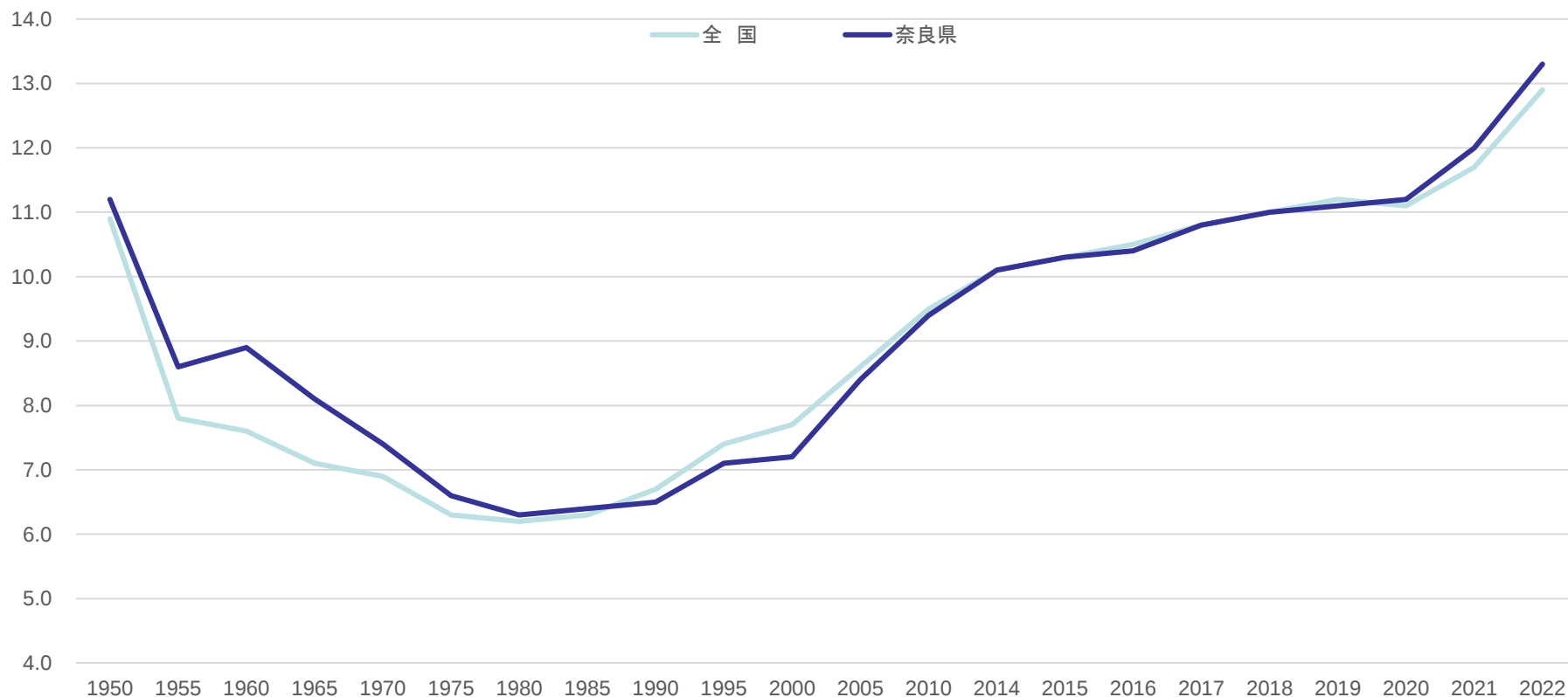
異状死数の推移(奈良県)

- 異状死数は、平成21年より増加傾向にある
 - 総死亡者に占める異状死の割合は、概ね13%前後で推移している
- ※異状死＝警察にて「検証・見分」「司法検視」「行政検視」が行われた死亡のこと



粗死亡率の年次推移(全国/奈良県)

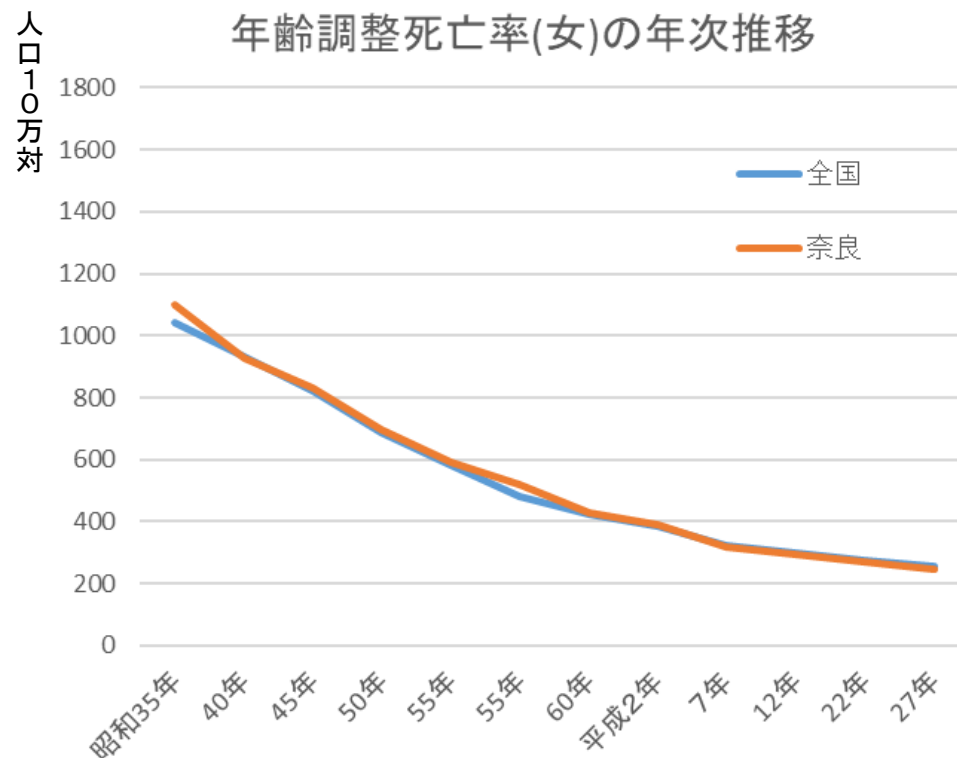
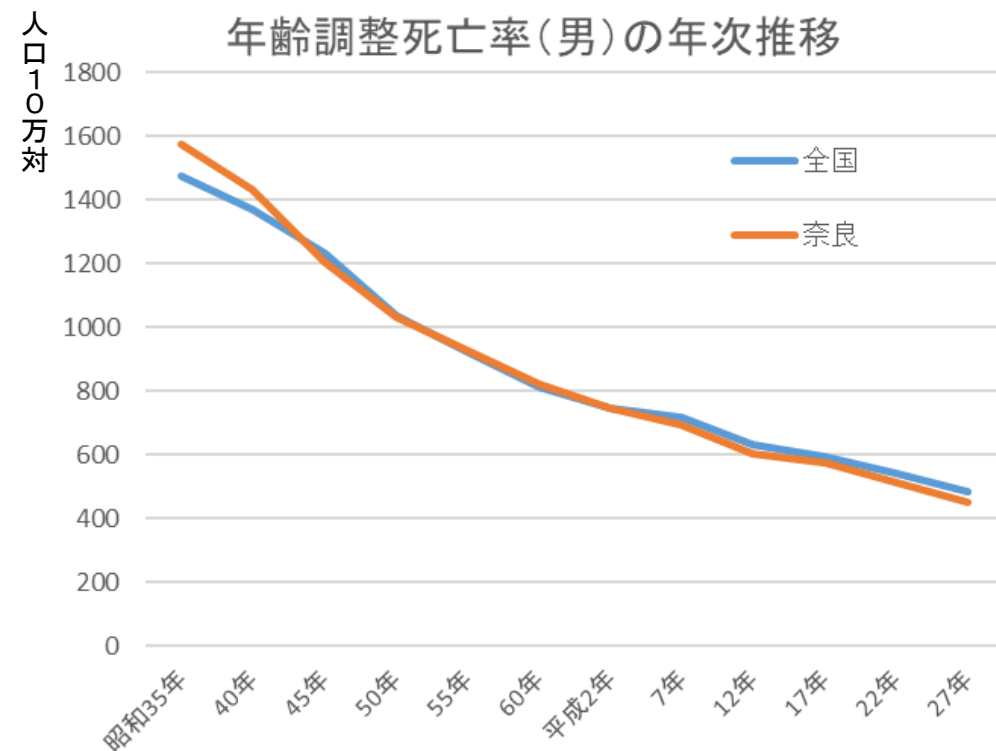
- 粗死亡率は、昭和50年代半ば頃からは、概ね全国と同様の状態で推移している
- 近年は増加傾向で、2022年の奈良県の粗死亡率は13.3



※粗死亡率…一定期間の死亡数を単純にその期間の人口で割った死亡率。
年齢調整をしないので、高齢者が多い地域では高くなる傾向がある。

年齢調整死亡率(全国/奈良県)

- 男性・女性ともに、全国とほぼ同様に推移している



最新のデータは、令和2年で、

＜全国＞男:1178 女:1050.4 、＜奈良県＞男:1218.2 女:1030.7 である。

※平成27年までは昭和60年モデル人口、令和2年からは平成27年モデル人口となっている。

出典:平成29年度人口動態特殊統計

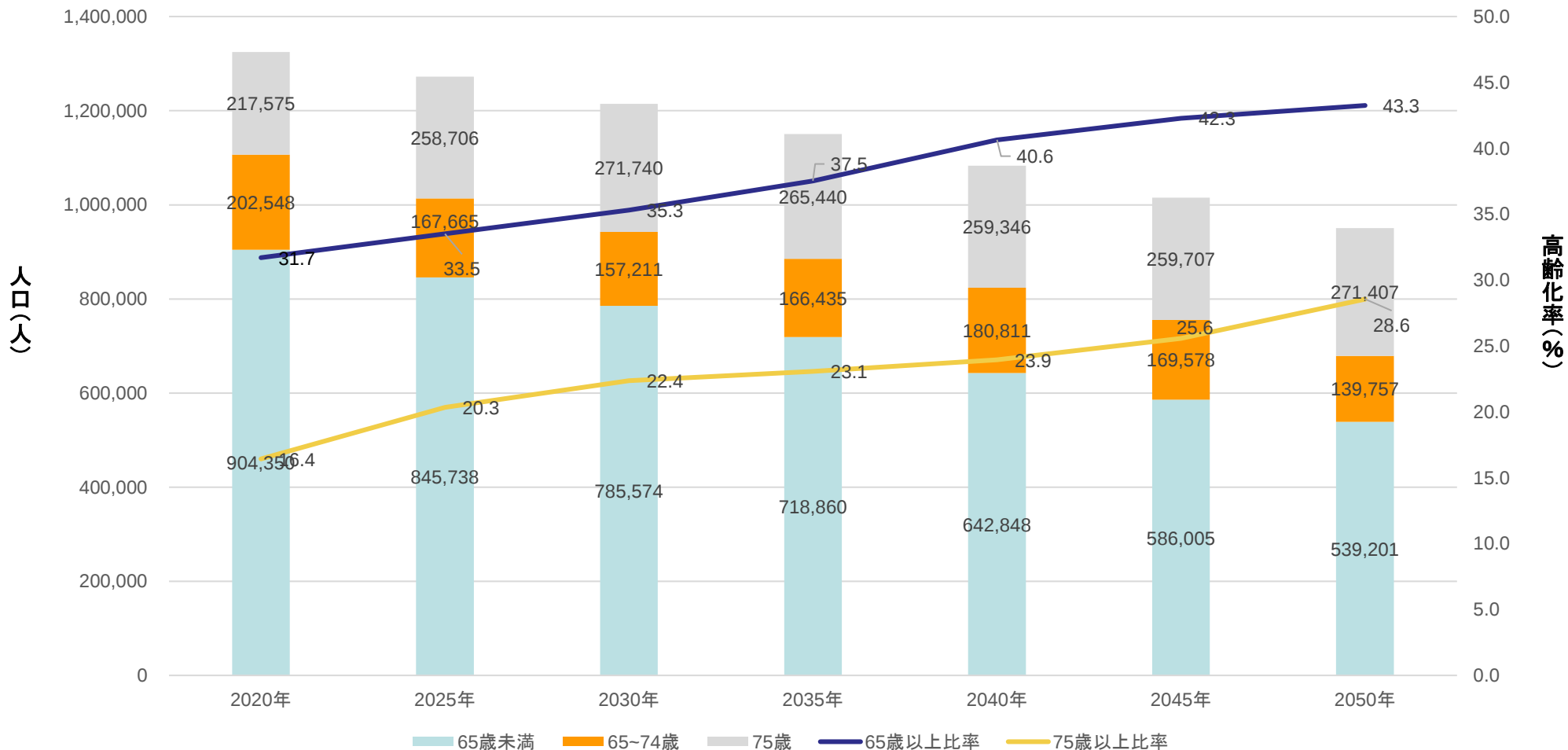
1表 都道府県別年齢調整死亡率(人口10万対),全死因・男女・年次別(昭和35・40・45・50・55・60・平成2・7・12・17・22・27年)

令和2年人口動態特殊統計

表1都道府県別年齢調整死亡率(人口10万対),全死因・男女別

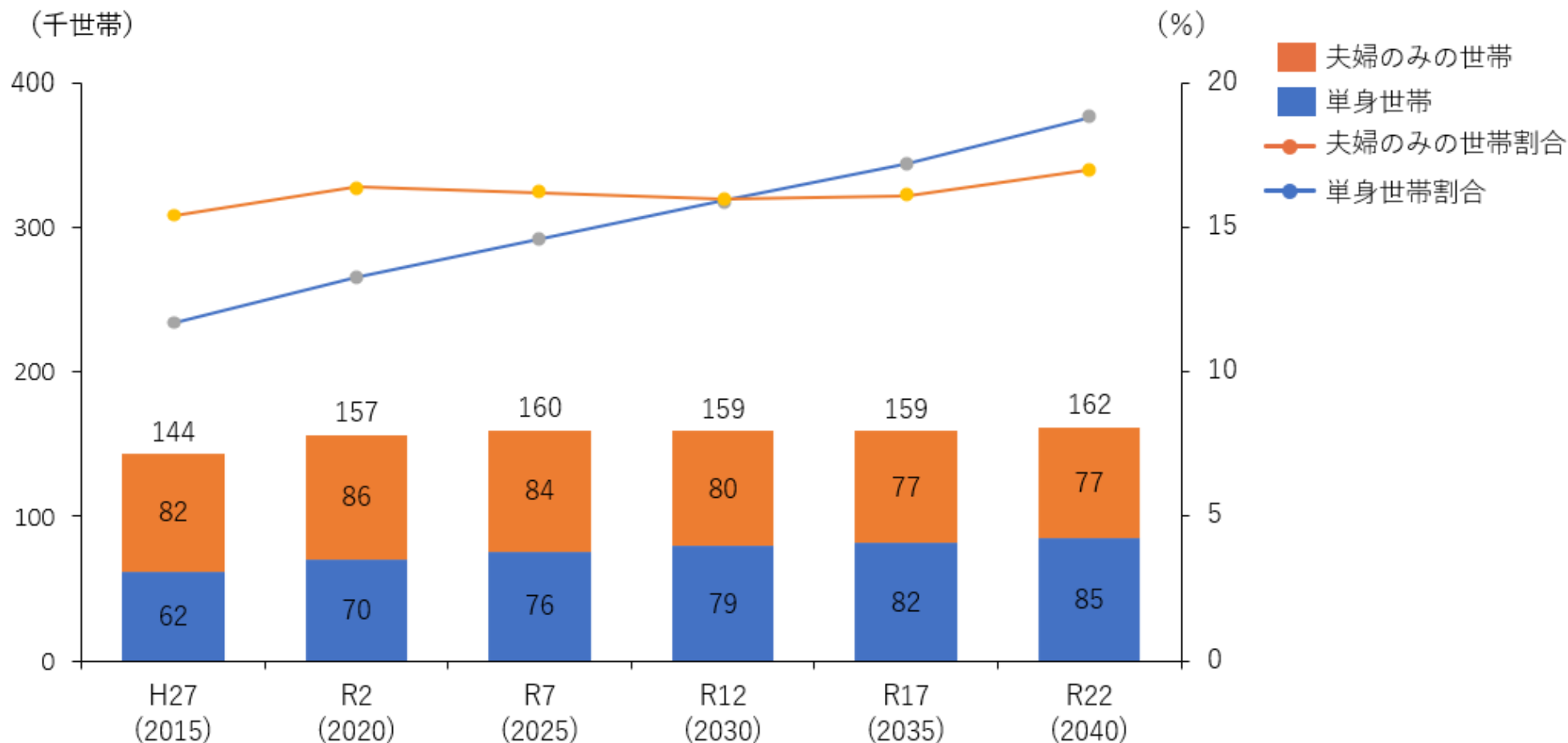
将来人口推計(奈良県)

- 奈良県における65歳以上の人口は、2020年以降約41万人程度で横ばいの状況となる見込み
- そのうち75歳以上の人口は、2025年以降約25万人前後で推移すると予想される



高齢者世帯数の推移及び将来推計(奈良県)

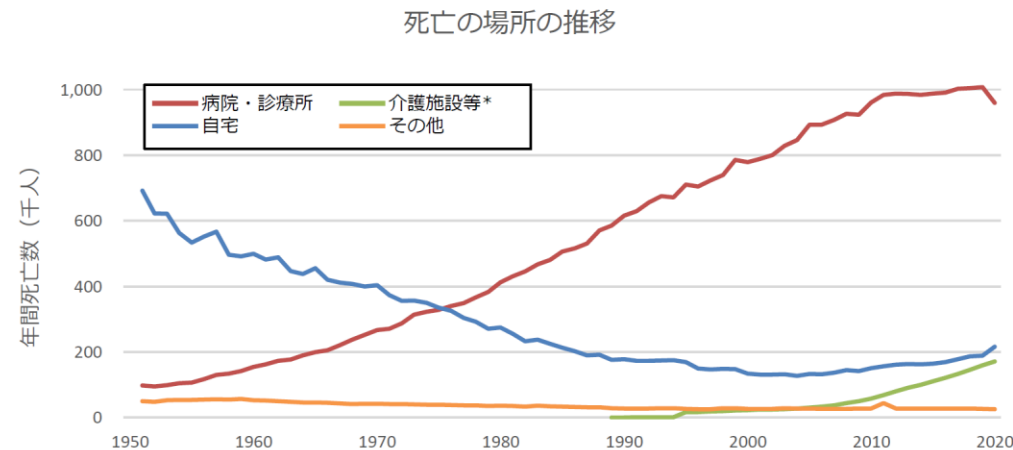
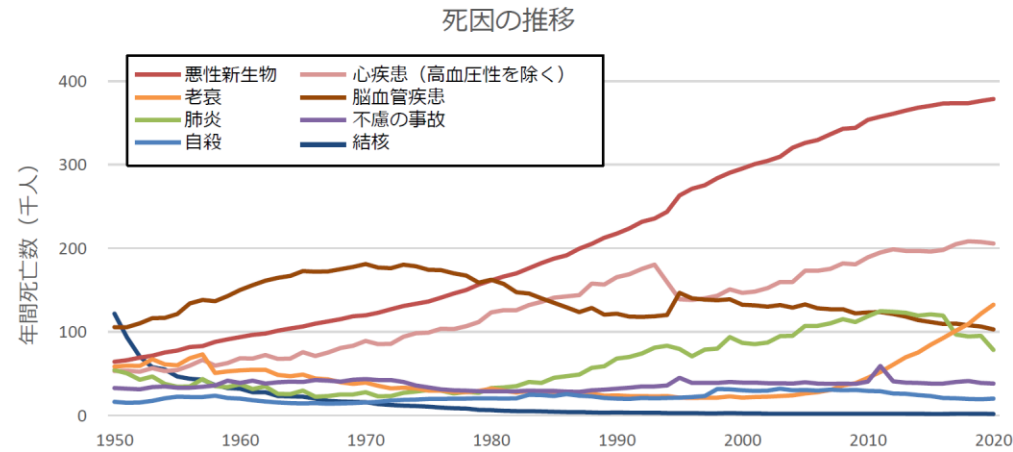
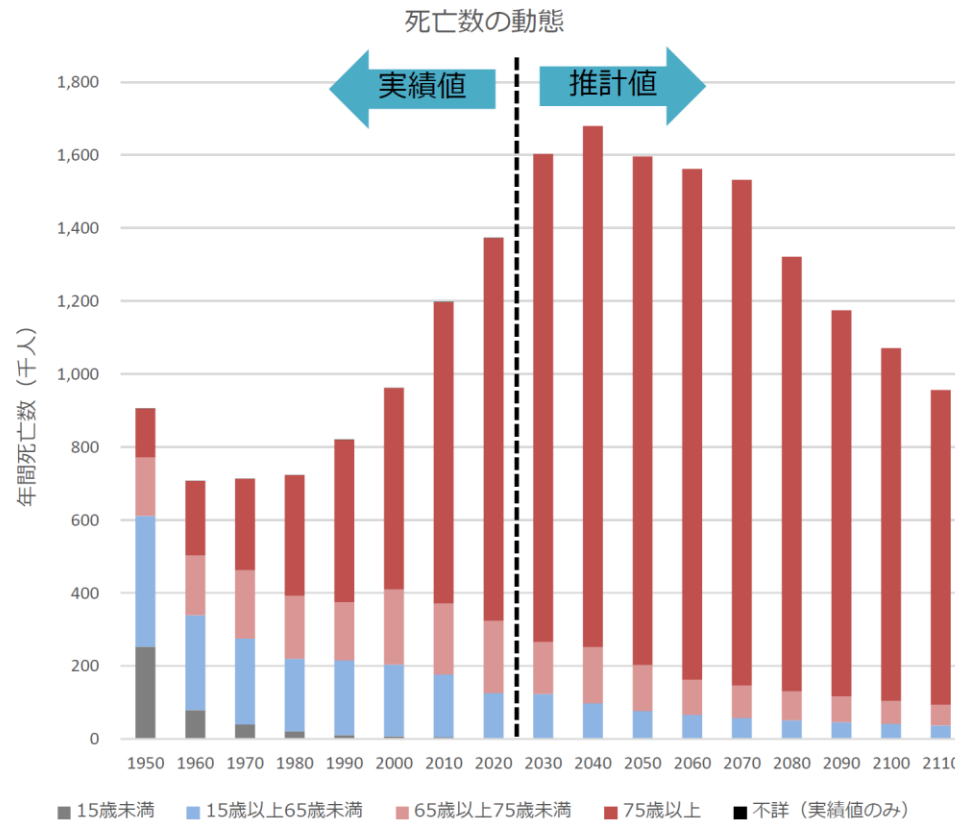
- 2030年を境に高齢者単身世帯が高齢者夫婦のみ世帯を上回る
- 2040年における一般世帯数に占める高齢者単身世帯は約19%に達する
→多職種連携により、地域で高齢者を見守る体制の構築が求められる



医療需要の変化⑦ 死亡数が一層増加する

令和4年3月4日
第7回第8次医療計画等に関する検討会(厚労省)資料より

- 死亡数については、2040年まで増加傾向にあり、ピーク時には年間約170万人が死亡すると見込まれる。
- 死因については、悪性新生物・心疾患とともに、老衰が増加傾向にある。
- 死亡の場所については、自宅・介護施設等が増加傾向にある。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「性・年齢（5歳階級）別死亡数」「出生中位（死亡中位）推計：男女年齢4区分別死亡数（総人口）」、厚生労働省「人口動態統計」

*介護施設等：介護医療院、介護老人保健施設、老人ホーム

※ 2020年までは実績値、2021年以降は推計値。